



# 「とりのこえ」からの「あいさつ」

初めまして。共通教育研究センターのニュースレター「とりのこえ」と申します。名前は成城学園校歌第一番の「黎明つぐる鳥の声」からいただきました。

さて、今回はまず、センターが管轄する科目のキャリアラム上の位置づけについてご説明します。センター科目とは、ひとことで言えば、大学の全科目から、学部、大学院の科目を除いたもののほぼすべてです。授業コマ数で言えば、今年度

で、私の理解をお話ししたいと思います。ひとつの理解として、学生は専門教育を受けるために学部を選んで大学に入るわけだから、共通教育は、言ってみれば刺身のつまのように、補助的な役割を果たせばよいのだ、という考え方もあり得るかもしれません。しかし成城大学は、学園校歌第四番に「高きかかげし全人の」とあるように、バランスの取れた円満な人格を育成することを理念としています。これを、専門知識・能力が人格と調和した状態と

ることとなります。たとえば体育科目は、健全な身体を作ることで、健全な精神を養うことを、ひとつの目的としていると考えられます。このように、人柄の円満さという成城大学の学生および卒業生の大きな美質を今後さらに伸ばすためにも、センター科目の役割は重要です。共通教育研究センターがそのような「成城らしさ」に少しでも貢献できるよ

う、力を尽くしたいという伝言を、センター・スタッフ一同から言付かりました。(センター長・津上英輔)

告を、記録として掲載しております。第三号(二〇一〇年度末発行予定)の原稿募集については、七月一日を目途に、別途書面と本センターのウェブページでお知らせする予定です。

## 「とりのこえ」の由来



『成城大学 共通教育論集』第二号が、二〇一〇年三月二三日付けで発刊されました。今回は論文六本、研究ノート四本が収録されています。また、本センターの二〇〇九年度分の活動報

告を、記録として掲載しております。第三号(二〇一〇年度末発行予定)の原稿募集については、七月一日を目途に、別途書面と本センターのウェブページでお知らせする予定です。

の黎明を告げる「鳥の声」となることはもちろん、あけそめた空のようなすがすがしさ、フレッシュさをいつも忘れることなく活動し、情報発信していかうという思いも込められています。

### ご意見・ご感想・寄稿募集

『とりのこえ』では、みなさまからのご意見やご感想、共通教育(教養教育、初年次教育など)にまつわる話題や原稿などを募集しております。詳細は、本センター(4頁参照)までお願いいたします。

共通教育研究センターの活動内容を大学全体の皆様に知っていただくという使命を帯びて、成城大学にやって来まして。年四回お邪魔し、主として教職員の皆様のところ

にうかがう予定ですが、来年四月には、学生の皆様にもお目にかかりたいと思っています。また会いたい、とまでは行かなくても、少しは面白いところのあるやつだ、と思っ

て、今回は学部・大学院の専門科目と全学共通科目の教育的関係に限っ

渡しする役割を負ってい

た。なお、この小鳥のイラストの著作権は、【イラストわんぱぐ】制作者の「つか」さんにあります。

# 第二回WRDプレゼンテーション コンテスト企画進行中

本センターでは、全学共通教育科目WRDにおける授業の成果を公開する場として、プレゼンテーションコンテストを企画・運営しています。このコンテストは、当初、WRD科目担当教員有志と他大学において類似する科目を担当する教員らとの自主的な交流によって企画され、他大学の学生も交えたコンテストとして出発しました。二〇〇九年度からは、本学のWRD科目担当教員有志で、WRD履修学生を対象とした第一回のコンテストを開催しました。

このコンテストでは、「病」「裁く」「スポーツ」といった大枠のテーマのみを設け、そこから自由な発想で、各グループがテーマを決め、一五〜二〇分間のプレゼンテーションを行います。審査の基準は、プレゼンテーションの内容や構成はもちろん、質疑応答の仕方にも及びます。また、プレゼンテーションだけではなく、フロアでもよい質問をした学生にも「ベスト質問賞」として表彰することも行っています。なお、他大学の学生も交えたインカレコンテストは引き続き行われており、本学のWRDプレゼンテーションコンテストで優秀な成績を修めたグループが参加しています。本コンテストでは、同じテーマで様々な内容のプレゼンテーションを互いに聞きあうことで学生同士の学部を超えた交流はもちろん、教員同士でも学生の指導方法や授業の進め方などのアイデアについて情報交換を行うことで、ファカルティ・デイベロップメント(FD)を促進する役割も果たしています。

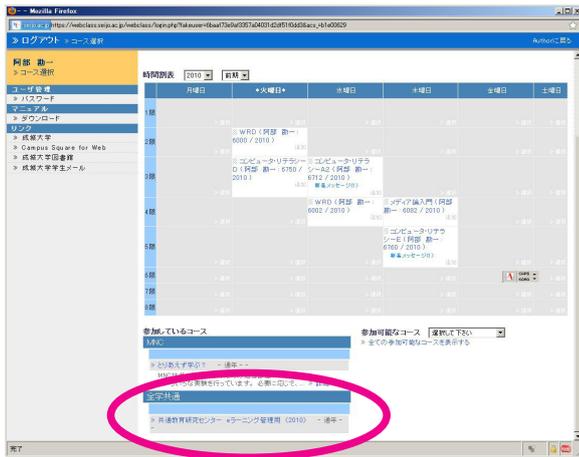
いわゆる初年次教育の重要性が叫ばれる中、初年次教育のカリキュラムはもちろん、授業内容や指導方法の構築にそれぞれ、各大学ではそれぞれ手探りで様々な「模索」を行っています。本センターでも、このプレゼンテーションコンテストのような企画を通して、本学での初年次教育のあり方について「模索」していきたいと考えています。



第1回コンテストの様子(10/1/9)

(3 ページからの続き)

- (6) ウェブクラス画面下部の「全学共通」欄の「共通教育研究センター e-ラーニング管理用」をクリックします。すると、「ビジュアル表現講座」「文章表現講座」へのリンクが表示されます。



全学共通

共通教育研究センター e-ラーニング管理用 (2010) - 通年 -

「共通教育研究センター e-ラーニング管理用」をクリック

い場合は二〇一一年一月八日(土)を予定しております。プレゼンテーションのテーマは、「たべ」です。時間的な制約から、二クラスから一チームのみのエントリーとし、全部で一〇チーム程度の出場枠を想定しています(WRDのクラスすべての参加を強制するものではありません)。コンテストへのエントリー方法など、詳細については、前期講義終了までに、WRD科目担当者に別途お知らせする予定です。

- (7) 「ビジュアル表現講座」「文章表現講座」それぞれの画面が表示されます。あとは、左側(黄色の部分)に表示されているメニューに沿って、解説を読み学習します。プログラムの最後には、学習内容の理解度を試すチェックテストが用意されています。



# e-ラーニング教材「ビジュアル表現講座」 「文章表現講座」導入と活用のすすめ

本センターでは、今年度、試行的にe-ラーニング教材「ビジュアル表現講座」「文章表現講座」を導入しました。これは、既に本学で導入されているe-ラーニングシステム「ウェブクラス」で使用する教材です。全学共通教育科目には、「WRD」「IT科目」「外国語科目」からなるリテラシー科目群がありますが、「WRD」と「IT科目」は、大学での学習に必要なレポートの作成方法やプレゼンテーションの方法について、相互補完的に扱っています。現在、「WRD」では、レポートやプレゼンテーションの題材、内容を構築する方法を中心に、「IT科目」のコンピュータ・リテラシーA1では、ワープロ、プレゼンテーションソフト等の使用方法を中心に、大学での学習に必要なリテラシーを身につける授業内容を展開しています。

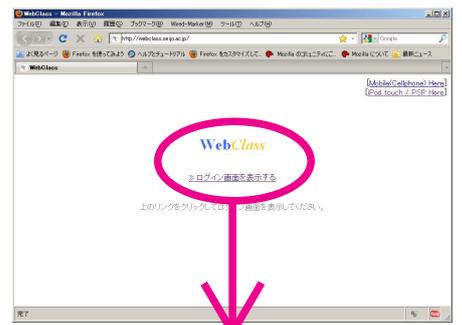
今回試行的に導入したe-ラーニング教材は、実際にレポートやプレゼンテーションのための資料を作成することを前提に、コンピュータの操作方法に加えて、文章(日本語)表現論理的な文章の書き方、プレゼンテーションの構成方法などにかんする基礎的な知識について学習することができます。コンピュータ・リテラシーA1で学習した方法を、実際のレポート作成やプレゼンテーションに活用するための学習ができます。また、このe-ラーニング教材を用いることで、WRDや専門科目の演習に相当する科目の授業で時間的余裕を割きにくいコンピュータの活用方法にかんする学習を補完することができます。例えば、これらの科目では、学生への宿題や課題(特に夏休み)としてe-ラーニング教材に取り組みせることで、レポートやプレゼン

テーションの実践にスムーズに入ることができると思います。もちろん、e-ラーニング教材ですから、学生の学習状況は記録に残ります。授業外での課題として取り組ませ、後から学習状況をチェックするなど管理が可能です。この教材は基礎的な内容が中心なので、当たり前のことが多いかもしれませんが、しかし、当たり前のことからこそ、授業時間を割いてまで取り上げるのではなくe-ラーニングシステムを使って学生に自習をさせる方法もあるかと思えます。今後、本センターではレポートの作成やプレゼンテーションの方法といった大学での学習全般にかかわる学習の内容について、全学共通教育科目を運営する中で様々な側面から検討していく予定です。ここで紹介した二つのe-ラーニング教材の導入もその一環です。

## e-ラーニングシステム「ウェブクラス」(Web Class) のアクセス方法

- (1) 大学のウェブページにアクセスし、「在学生の方」(ページ上部：緑色のタブ)をクリックします。
- (2) ページ左側にあるメニューから、「WebTool」をクリックします。
- (3) 「WebTool」の下にある「Web Class」をクリックします。クリックすると別のウィンドウが立ち上がり、ウェブクラスのログイン画面が表示されます。

「ログイン画面を表示する」をクリック



ログイン画面が表示される



- (4) ウィンドウが開いたら「ログイン画面を表示する」をクリックします。ウェブクラスのログイン画面が表示されます。
- (5) ログイン画面左側に、「ユーザーID」と「パスワード」を入力します。

「WebClass」をクリック

「在学生の方」をクリック

# 共通教育研究センターの組織について

共通教育研究センターが二〇〇七年四月に発足して今年度で四年目を迎えます。全学共通教育が本格的に施行されるに伴い、本センターが発足したわけですが、全学共通教育科目が多様な分野、多くの科目をカバーしている分、本センターの組織もそれに対応したものがなっています。

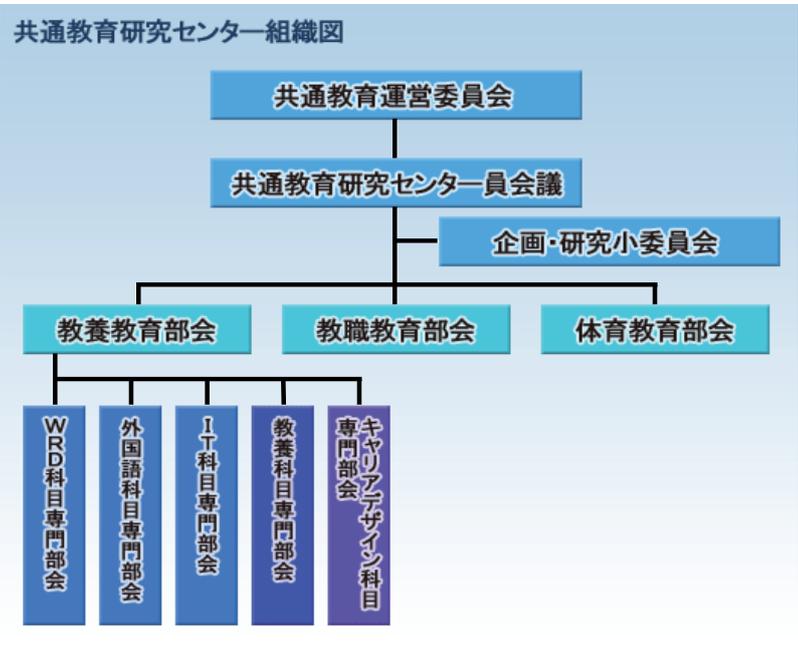
本センターは、大きく分けて「教養科目部会」「教職科目部会」「体育科目部会」の三つの部会から成り立っています。三つの科目の内、「教養科目部会」は、五つの「専門部会」に分かれています。これは、教養科目内の分類に対応するようにならなければなりません。それぞれの専門部会は、各学部から一〜二名(複数)の専門部会を兼ねている委員を含む)の委員から構成されています。したがって、センター員のメンバーは、いずれかの部会あるいは専門部会に所属しています。先に述べたように、専門部会の構成は、教養教育科目の分類に対応している訳です。本センターの組織を見れば、全学共通教育科目の構成を知ることができると言えるでしょう。

センターの組織が科目に応じて縦に広がっているのをカバーするべく、各部会を横の連携を深めるとともに、センターが管轄する科目の企画、センター主催の教育研究活動にかかわる企画などを審議し決定する委員会として、企画・研究小委員会があります。企画・研究小委員会は、各部会、教養部会参加の各専門部会の部会長などから構成されています。これまで、企画・研究小委員会は、開催回数などから見ても必ずしも本格的に機能していたとは言えませんが、今後は、全学共通教育科目の内容にかかわる具体的な企画の議論や、センターの活動をより活性化するための活動を牽引することが期待されます。

センターの最高意思決定機関が共通教育研究センター員会議です。その上に、

共通教育研究センター センター員 (2010年度:学部別・50音順、氏名の後は所属部会)			
センター長 文芸学部 教授 津上英輔			
経済学部			
准教授	阿部 勘一	教養	(教養・WRD・IT)
教授	小平 裕	教養	(キャリア)
教授・教務部長	杉本 義行	教職	
教授	田中 誠一	体育	
教授	中條屋 進	教養	(WRD)
教授	塘 誠	教職	
准教授	中村 理香	教養	(教養)
教授	牧野 陽子	教養	(外国語)
教授	増川 純一	教養	(IT)
文芸学部			
准教授	岩田 一正	教職	
教授	小澤 正人	教養	(IT)
教授	川上 善郎	教養	(キャリア)
教授	北山 研二	教養	(外国語)
教授	窪田 三喜夫	教職	
教授	小島 孝夫	教養	(WRD)
教授	杉本 豊久	教養	(外国語)
教授	妹尾 江里子	体育	
准教授	東谷 護	教養	(教養・WRD)
教授	宮崎 修多	教養	(教養)
法学部			
教授	太田 晋	教養	(教養・WRD・外国語)
教授	大津 浩	教養	(IT)
教授	新山 一雄	教養	(キャリア)
キャリア支援部長	平野 篤司	教職	
社会イノベーション学部			
教授	内田 真人	教養	(キャリア)
准教授	加藤 敦宣	教養	(IT)
教授	斎藤 忠志	教養	(外国語)
教授	櫻井 一彦	教養	(教養・WRD)
教授	田中 陽子	体育	
教授	平井 康大	教職	
共通教育研究センター			
特別任用教授	齋藤 武捷	教職	

全学共通教育科目の運営と本センターの運営を管轄する共通教育運営委員会が設置されています。共通教育運営委員会は、各学部の学部長と各学部から選出された委員一名、そして共通教育研究センター長から構成されています。共通教育運営委員会では、センターで決定された事項や予算・決算、人事などに関する重要事項を審議します。共通教育運営委員会が決定された



『とりのこえ』  
成城大学 共通教育研究センター  
ニュースレター 2010年度 第1号  
(2010年6月15日発行)  
発行責任者: 津上 英輔  
編集担当: 阿部 勘一

成城大学 共通教育研究センター  
〒157-8511 東京都世田谷区成城 6-1-20  
Tel: 03-3482-9556 Fax: 03-3482-9053  
e-mail: kyotsu@seijo.ac.jp

ことで、科目担当者や人事など各学部で審議する必要のある案件は、各教授会に諮られます。